

奈良県
キャリア教育の手引

—キャリアデザインできる子どもの育成をめざして—



平成28年6月

奈良県立教育研究所

は じ め に

「私は、サッカー選手になりたい。」

「私は、お医者さんになりたい。」

子どもたちの夢や希望は無限に広がり、未来に向かっていきます。子どもたちは自分の将来を想像し、夢に向かって日々の学校生活を送っていることでしょう。そんな子どもたちの夢や希望の実現のために必要な力を育てることに、教職員は喜びと責任を感じます。

しかしながら、今日、子どもたちをとりまく社会環境等の変化は大きく、かつ急速に進み、若年層における早期離職や非正規雇用の増加など、若者の就労をめぐる様々な問題も深刻化しています。

このような中、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を醸成するとともに、自らの夢の実現や目標の達成に向けて主体的に努力する態度を育み、個性に応じて進路を選択する能力を高めるため、今まで以上にキャリア教育の推進が必要です。

平成28年3月に策定された奈良県教育振興大綱では、施策の方向性の一つに「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育・職業教育、就労支援の充実」があり、各学校段階におけるキャリア教育を充実させることで、自らキャリアデザインできる子どもを育成することの重要性が述べられています。

以上の経過を踏まえ、この度「奈良県キャリア教育の手引」を作成しました。この手引では、キャリア教育を実践する上での基本的な理論及び指導の方向性を示すとともに、それに基づいた各学校段階における指導計画や具体的な実践例等を豊富に掲載しています。

今後は、全ての学校等においてこの手引が活用され、子どもたちの夢や希望の実現に向かってキャリア教育が充実し、推進されることを期待します。

平成28年6月

奈良県立教育研究所
所長 吉田 育弘

目 次

理論編

- 1 奈良県のキャリア教育とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 キャリア教育で育成すべき力・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 キャリア教育の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 4 子どものキャリアデザインを育むための指導プログラム（例）・・ 9

実践編

- 小学校実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 中学校実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 高等学校実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

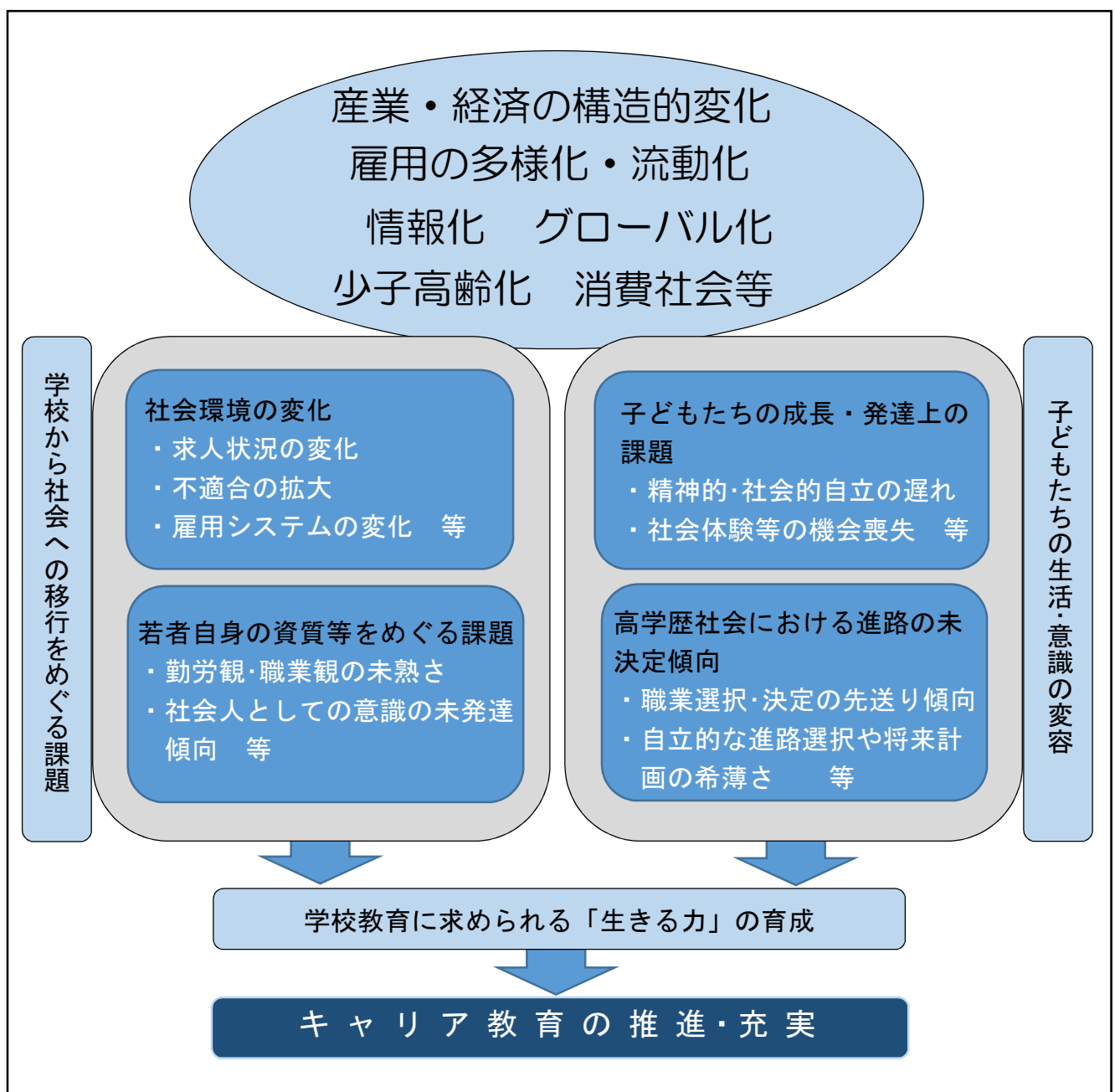
理論編

- 1 奈良県のキャリア教育とは
- 2 キャリア教育で育成すべき力
- 3 キャリア教育の目標
- 4 子どものキャリアデザインを育むための
指導プログラム（例）

1 奈良県のキャリア教育とは

キャリア教育が求められる背景

社会環境の変化や産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等、とどまることなく変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠です。子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の変化に主体的に向き合っており、直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができるようにする教育(キャリア教育)が求められています。



☆キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

○キャリアとは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

○キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

奈良県が目指すキャリア教育

奈良県の小学校及び中学校では、「将来の夢や目標をもっていますか」「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問について、肯定的に答えた児童生徒の割合が、小・中学校ともに全国平均より低く、自分の将来に対する意欲や、計画立案などの課題対応能力等に課題があることが分かります。

また、高等学校では、卒業生の3年以内の離職率が全国平均より高く、自分の適性に応じた進路の選択等に課題があることがうかがえます。

これらの課題をふまえて、奈良県ではキャリア教育を、次のようにとらえています。

将来の夢や目標をもっている(当てはまる、どちらかといえば当てはまる)

	H25		H26		H27	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校	87.5	87.7	85.9	86.7	85.7	86.5
中学校	72.4	73.5	70.7	71.4	69.5	71.7

自分で計画を立てて勉強をしている(している、どちらかといえばしている)

	H25		H26		H27	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校	55.0	58.9	57.3	61.0	57.4	62.8
中学校	42.6	44.5	44.9	46.6	47.2	48.8

(H25～27年度「全国学力・学習状況調査」 単位%)

県内高校卒業生の3年以内の離職率

	奈良県	全国
平成23年3月卒業	49.7	39.6
平成22年3月卒業	48.4	40.1

(雇用労政課 単位%)

自らの夢の実現や目標の達成に向けて主体的に努力する態度や、個性に応じて進路を選択する能力の育成を目指す。

(「奈良県教育振興大綱」(平成28年3月))

奈良県のキャリア教育は、子どもたちが将来の夢や目標に向かって意欲的に学び、社会的・職業的自立に向けて、就労や進学などを含めて、自らの在り方や生き方を考えながら人生設計を行うことができる態度や能力の育成を目指しています。

2 キャリア教育で育成すべき力

キャリア教育で育成すべき力は「基礎的・汎用的能力」と言われるものです。「基礎的・汎用的能力」は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力によって構成されます。これらの能力について、答申は次のように述べています。

- これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。
- これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるのかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体的な能力を設定し、工夫された教育を通じて達成することが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。
(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

例) 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

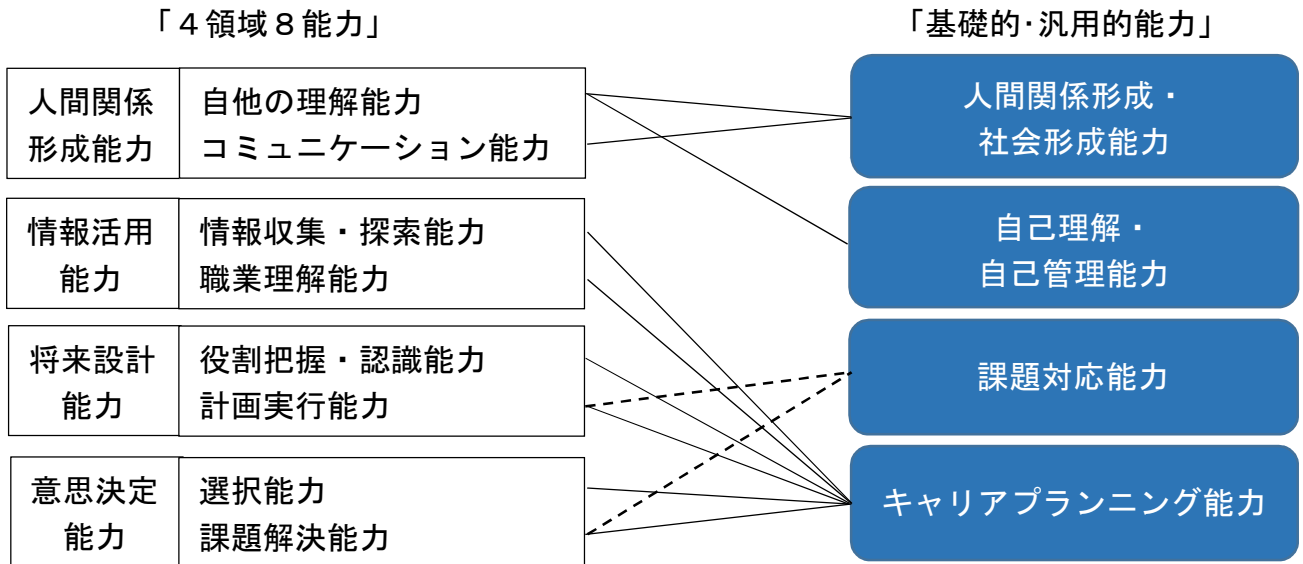
キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」へ

「基礎的・汎用的能力」は、これまでの「4領域8能力」を補強し、より一層現実在即して、社会的・職業的に自立するために必要な能力を育成しようとするものです。



※図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。「計画実行能力」「課題解決能力」という「ラベル」からは「課題対応能力」と密接なつながりが連想されるが、能力の説明等までを視野におさめた場合、「4領域8能力」では、「基礎的・汎用的能力」における「課題対応能力」に相当する能力について、必ずしも前面に出されてはいなかったことが分かる。

キャリア教育の視点から学校の教育活動を振り返りましょう。

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して行います。今まで行ってきた様々な活動に「宝（＝キャリア教育の断片）」はたくさんあります。今既にあるものを活用するという視点でとらえ直しましょう。

- ・ 教育内容に関すること
- ・ 指導方法に関すること
- ・ 生活や学習の習慣・ルールに関すること
- ・ 体験的な活動に関すること

} キャリア教育に関する内容が数多くあります。



「キャリア教育の視点から教育活動を振り返る」とは・・・

キャリア教育を通して育成することが期待される基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力のフィルターを通して教育活動をとらえ直してみることです。

キャリア教育に関する内容を含む教育活動が、どの能力の向上や育成につながるか考えましょう。

- ・ 人間関係形成・社会形成能力
- ・ 自己理解・自己管理能力
- ・ 課題対応能力
- ・ キャリアプランニング能力

3 キャリア教育の目標

各校種におけるキャリア発達と目標設定

各校種のキャリア発達段階と発達課題の特質を踏まえるとともに、各学校の児童・生徒の実態や地域の実態に応じて目標を設定することが大切です。

・キャリア発達段階

小学校

進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期

低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的自立、職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期である。



児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化とかわる体験活動を、身近なところから徐々に広げ、丁寧に設定していくことが大切である。

中学校

現実的探索と暫定的選択の時期

社会の一員として自分の役割や責任の自覚が芽生えるとともに、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を探索し、夢や理想を持つ時期である。一方で、現実的な進路の選択を迫られ、自分の意志と責任で決定しなければならない時期でもある。



社会における自らの役割や将来の生き方、働き方についてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である。

高等学校

現実的探索・試行と社会的移行準備の時期

集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながら各自の様々な役割や期待に応えて円滑な人間関係を築くことが求められる時期である。また、自己の個性や能力を生かす進路を自らの意志と責任で選択し、決定していくことが求められる時期でもある。



生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観・職業観等の価値観の自らの形成・確立を目標として設定することが重要である。

・ 目標設定について

小学校におけるキャリア教育の目標

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の育成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

高等学校におけるキャリア教育の目標

- 自己理解の深化と自己受容
- 選択基準としての勤労観・職業観の確立
- 将来設計の立案と社会的移行の準備
- 進路の現実吟味と試行的参加

具体的な目標設定へ

- ・ 児童・生徒の実態
- ・ 地域・学校の特徴
- ・ 目指す児童・生徒像
- ・ 養うべき資質・能力・態度の明示
- ・ 教育活動ごとに指導すべき事項の分類・整理
- ・ 全体計画、年間指導計画の作成

各教科等におけるキャリア教育の推進について

各教科等の学習で育成できる「基礎的・汎用的能力」を考えましょう。

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものです。日々の教育活動の中で、一人一人の児童生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促します。

各教科等の指導においては、各教科等が、「基礎的・汎用的能力」の育成にどのように貢献できるかを考え、学習指導要領で示されているキャリア教育との関連性について理解した上で、各教科等の特質と単元や題材の内容を生かした創意・工夫が必要です。また、各教科等における取組は、相互に関連性をもたせることで効果的な教育活動となります。

中学校・高等学校での各教科等におけるキャリア教育は、教員が自ら担当するそれぞれの教科等との関連を図ることが極めて重要です。それぞれの教科等の担当者が、学ぶことの楽しさや、実生活との関連について伝えることで、子どもたちの学習意欲が向上し、学ぶことと働くこととの関連についての理解が深まります。

なお、各校種の学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等の例は、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育」資料集に掲載されていますので、参考にしてください。

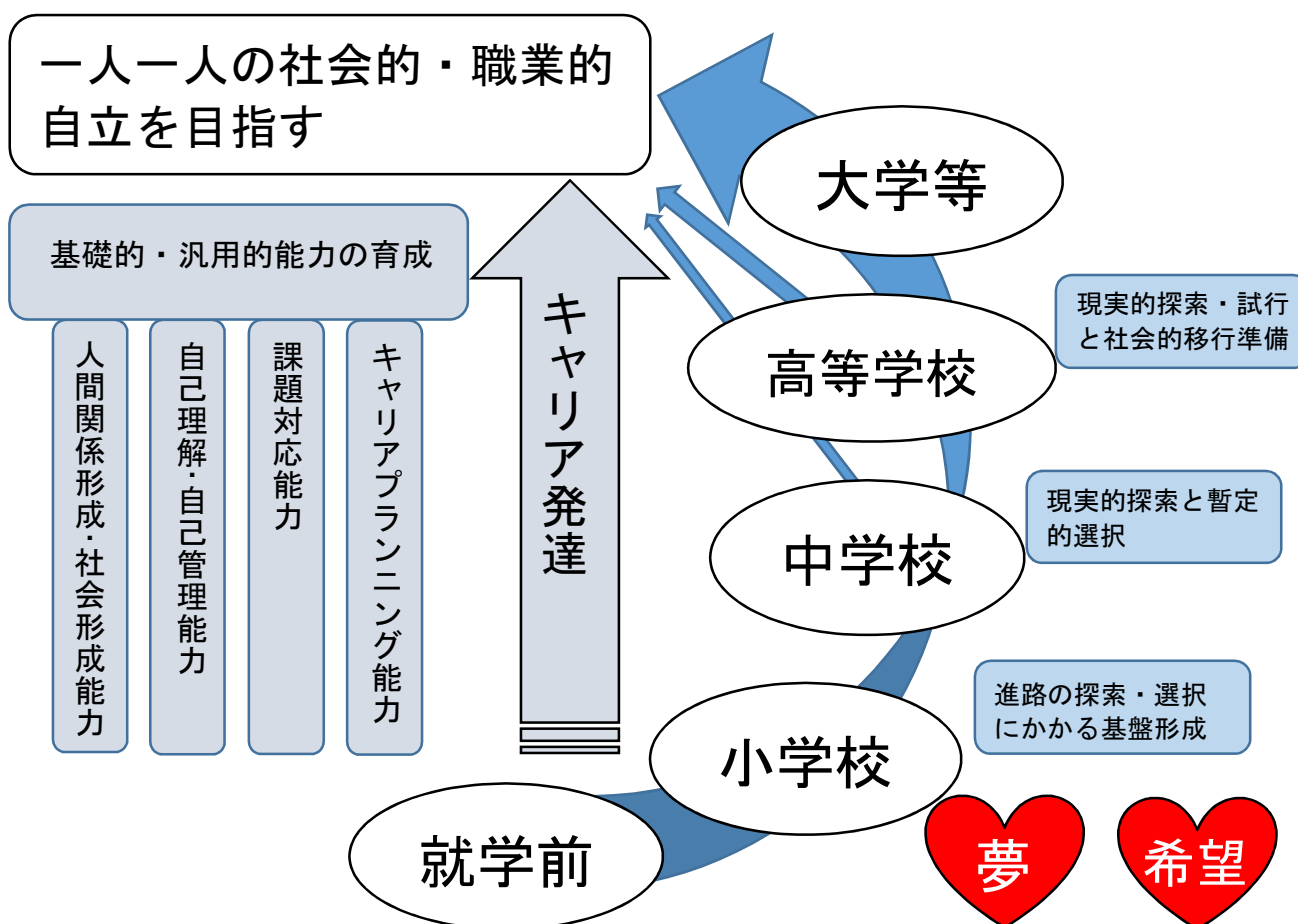
学校間(異校種間)連携について

キャリア教育は、異校種間のつながりを意識することが大切です。

キャリア教育は、全教育活動の中で意図的・継続的に推進していくものです。一人の人間の成長を考えたとき、異なる校種への移行は連続性があり、キャリア教育上の連携は、必要不可欠です。各校種は、それぞれの接続と関連を図り、一貫性のある指導を行うことが重要です。

- 異校種の活動について互いに理解を深める。
- 発達段階に応じた系統性のある指導計画を作成する。
- 個に応じた指導を継続的に行うために、児童生徒のキャリア発達状況を伝える。
- 児童生徒について学校間で連絡会をもち、教育計画等について情報交換する。

キャリア教育の全体像



4 子どものキャリアデザインを 育むための指導プログラム(例)

子どものキャリアデザインを育むための指導プログラム(例)

	幼稚園・幼稚部 こども園・保育所	小学校・小学部			
		低学年(1・2年)	中学年(3・4年)	高学年(5・6年)	
キャリア発達の段階	生活習慣確立の時期	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			
各発達の段階におけるキャリア発達課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物事に関わる楽しさや喜びを味わう経験の蓄積 ・自分のできることを最後までやり遂げようとする意欲や態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			
基礎的・汎用的能力	キャリア発達を促す能力・態度の育成を				
人間関係形成・ 社会形成能力	指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して挨拶や返事ができるようにする。 ・場に応じて「ありがとう」や「ごめんない」などの言葉が言えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶やはっきりとした返事ができるようにする。 ・お礼やおわびの言葉をきちんと伝えるようにする。 ・自分の考えをみんなの前で言い、人の話をきちんと聞くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉遣いで話したり接したりするとともに、相手の立場に立って考えられるようにする。 ・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現できるようにする。 ・友達と協力して学習や活動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語を正しく使うなど、礼儀をわきまえた言動ができるようにする。 ・思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考え、行動できるようにする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加させ、役割と責任を果たせるようにする。
	活動例	<ul style="list-style-type: none"> ☆登園(校・所)時に、友達や先生、地域の人たちなどに進んで挨拶をする。 ☆名前を呼ばれたときは、大きな声で返事をする。 ☆場面に応じて感謝やおわびの気持ちを言葉で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆幼児を招待して、いっしょに楽しく遊ぶ。 ☆町探検を通して、自分の住む地域に関心を持ち、自分が様々な人や場所と関わっていることを知る。 ☆学級活動の話合い活動で考えたことを発表し、友達の意見を聞いて自分の考えと比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☺【実践例 体育 P16】 ☆校区探検で、様々な人と出会い、自分の質問を分かりやすく伝え、話を聞く。 ☆器械運動で、友達と見合ったり教え合ったりして、協力して練習する。 ☆ボランティア活動を行い、今まで気付かなかった友達の姿を発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆茶道や能・狂言等の伝統文化の体験を通して、礼儀作法やその意義を知る。 ☆児童会活動や異年齢集団活動等で中心的役割を担い、集団をまとめる活動を行う。
自己理解・ 自己管理能力	指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたい遊びや活動を見付け、主体的に関わるができるようにする。 ・友達には友達のやりたい遊びがあることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところに気付かせる。 ・お世話になった人などに感謝の気持ちを表出できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところを見付け、自信をもてるようにする。 ・自分の生活を支える人々の存在に感謝の気持ちを表出できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所に気付かせ、自分らしさを発揮させる。 ・自分と異なる意見を理解させ、折り合いを付けることの大切さに気付かせる。
	活動例	<ul style="list-style-type: none"> ☆能動的に対象に関わり、自己を表出できるようにする。 ☆友達との遊びの中で、したいことが同じだったり違ったりすることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☺【実践例 特別活動・学級活動 P20】 ☆自分の成長や頑張りを振り返り、自分のよさに気付く。 ☆昔遊び等で地域の高齢者とふれ合い、感謝の気持ちを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆友達との交流の中で、互いのよさを認め合うことを通して、自分のよいところに気付き、伸ばそうとする。 ☆地域の仕事を見学し、多くの人たちの存在によって助けられ、生活していることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆児童会の活動や学級の行事を計画・立案するために、様々な友達の意見を聞き、自分の意見をはっきりと言う。 ☆学級活動の話し合い活動で、自分と友達の意見のそれぞれのよい点を見付け、よりよい考えに発展させる。
課題対応能力	指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でできることに目を向け、取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を見付けて、することを決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事に粘り強く取り組めるようにする。 ・自分の力で課題を解決させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や学習上の課題を見付け、見通しをもって自分の力で解決できるようにする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力できるようにする。
	活動例	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分ができるお手伝いを、進んでしようとする。 ☆友達と楽しく遊ぶために、きまりを守ったり、相談したり、折り合いをつけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆町探検で調べたいことを自分で決める。 ☆たし算、ひき算の学習で、計算のきまりを自ら発見したり、学習したことを生活に生かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆学級の活動で計画どおりに進まなかった場合、その原因を一緒に考える。 ☆課題の解決のための方法を、自ら調べたり、友達と話し合ったりして見いだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ☺【実践例 道徳 P18】 ☆代表委員会等で学校生活に関わる様々な課題について、自分たちで話し合い、解決する。 ☆夢の実現に向かって努力し続けた先人の生き方等について話し合う。
キャリア プランニング 能力	指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動を思う存分楽しめるようにする。 ・自分のことは自分でできるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や準備の片付けをさせる。 ・約束やきまりを守らせる。 ・自分にできることについて考えさせ、役割の必要性を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習等の計画を立てたり、作業等の手順を考えたりすることの必要性に気付かせる。 ・働くことの大切さや、役割を分担することの大切さを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を考えることの大切さを理解させる。 ・様々な産業、職業の様子やその変化を理解させる。 ・家庭生活や社会生活には、様々な役割があることやその大切さを理解させる。
	活動例	<ul style="list-style-type: none"> ☆かいたりつくったりして、自分の表現したいことを表す。 ☆家庭や社会での様々な仕事や役割を思い描きながら、ごっこ遊びを楽しむ。 ☆自分のものや遊びに使うものを大切にしたり、整理整頓したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆遠足や校外学習の約束やきまりを理解して守る。 ☆家庭で自分にできる仕事を見付け、責任をもって役割を果たす。 ☆学級の中で自分のできることに取り組み、みんなの役に立つことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☺【実践例 社会 P14】 ☆伝統産業や地場産業の職場を見学し、地域に定着している理由や地域に与えている影響等について考える。 ☆係活動や当番活動に積極的に取り組み、働くことの楽しさを味わう。 ☆働く人たちの姿や願いを知ることを通して、働くことの意義を理解し、夢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の夢や将来の目標等をタイムカプセルにする。 ☆職場見学を行い、仕事に従事している人の工夫や努力を聞く等、様々な職業について調べる。 ☆整理整頓や清掃等、快適な住まい方について話し合い、家族に感謝する気持ちを持ち、家庭における自分の役割について考える。

※特別支援学校の各学部では、上記の活動例を参考に、幼児児童生徒の実態を的確に把握し、「個別の指導計画」を作成します。

中学校・中学部	高等学校・高等部
現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
<ul style="list-style-type: none"> 肯定的自己理解と自己有用感の獲得 興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的選択 生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観・職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加

目指した指導のねらいと活動例

<ul style="list-style-type: none"> 時と場所、相手との関係をわきまえて、礼儀正しく挨拶や対応ができるようにする。 社会規範の必要性や意義を理解させるとともに、適切なマナー等を習得させる。 新しい環境や人間関係に適應できるようにする。 他者の感情を理解しようとすることや、互いに支え合い分かり合うことの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の思いや意見を適切に伝えさせ、他者の意思等を的確に理解させる。 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図らせる。 リーダーシップ・フォロワーシップを發揮して相手の能力を引き出し、チームワークを大切にできるようにする。
<p>☺【実践例 特別活動 P26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆職場体験の事前・事後に、受入先との連絡調整や依頼状、お礼状の送付等を行う。 ☆テーブルマナー講習会等を企画・実施し、サービスをする立場、受ける立場の両方を体験する。 ☆多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを伝える。 	<p>☺【実践例 総合的な学習の時間 P28】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ホームルームでの話し合い活動等を通じて、相互理解を図るとともに、協力して物事に取り組む。 ☆ボランティア活動等を通して、社会奉仕の精神を身に付け、勤労の尊さや喜びを体得する。 ☆協働的な学習活動の中で、コミュニケーションを図り、課題解決に向けて取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解させる。 自分の長所や個性が發揮できるようにする。 よりよい集団活動のための役割分担やその方法等について理解し、行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を捉え、自己のキャリアデザインを考えさせる。 他者の価値観や個性を理解し、それを受け入れて自己の考え方を広げ、深めさせる。
<p>☺【実践例 道徳 P22】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆野外活動でのキャンプファイヤーのスタンスを考え、他者とも協力しながら自分の役割を果たす。 ☆文化祭等の企画・立案に積極的に関わることを通して、他者の思いや感情を理解し、受け止めることの大切さを知る。 ☆体育祭の運営を生徒会で主体的に行うこと等を通して、生徒が自分の個性と集団内での役割を自覚し、積極的に責任を果たす。 	<p>☺【実践例 特別活動・ホームルーム活動 P32】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆職業人インタビューや就業体験等の体験的な活動を通じて、職業の実際や自分の適性等を知る。 ☆社会人講話等の啓発的な体験活動を通じて、自分の適性等を踏まえて主体的に行動する。
<ul style="list-style-type: none"> よりよい生活や学習を目指して、自ら課題を見付け主体的に解決するように取り組むことの大切さを理解させる。 確かな進路選択に当たって、学習や進路選択の過程を振り返らせ、課題解決に取り組みながら、よりよい生き方を目指すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来設計・進路希望の実現を目指して、課題を設定させ、その解決に取り組ませる。 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討させる。 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付けさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ☆地域のボランティア活動や防災訓練に参加し、活動の成果を向上させるためにどのように取り組んだのかを考察しまとめる。 ☆学級活動をはじめ、各教科等で進路選択に関わる課題に対し、どのように取り組もうとしているのかについて考え発表する。 	<p>☺【実践例 特別活動・ホームルーム活動 P34】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆進路適性の理解と進路情報の活用を通して、将来の進路実現に向けて課題を発見する。 ☆基礎的・基本的な学力を身に付け、身近な問題を主体的に探究する。 ☆部活動等の学校生活において心身を鍛え、自立・協調、奉仕の精神や態度を醸成し、進路実現に結び付ける。
<ul style="list-style-type: none"> 今の生活や学習が将来の生き方に関わることを理解させ、進路希望に基づいて目標や計画を立てさせる。 様々な職業に関する情報を収集・整理、活用し、勤労の尊さやその意義を理解させる。 個人と社会との関わりや、様々な職業の社会的役割を理解させ、生き方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計させ、進路計画を立案させる。 就業体験等や上級学校の体験入学等に取り組ませる。 職業生活における権利・義務や責任、職業に就く手続き・方法等について理解させる。
<p>☺【実践例 総合的な学習の時間 P24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆キャリアセミナー等で社会人・職業人の話を参考にして、働くことの意味や自分の進路を考え、実現のための目標や学習計画を立てる。 ☆職場体験学習で気付いた様々な職業についての情報を収集・整理し、交流・発表し合う。 ☆事業所や上級学校の見学・体験訪問を通して、進路決定のための課題を見付け、実現に向けた努力をする。 	<p>☺【実践例 総合的な学習の時間 P30】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆将来の社会生活・職業生活に必要な力を理解するとともに、計画的に資格取得等に取り組む。 ☆大学等の向こうにある社会を意識し、将来の職業を見通して、進路計画を立てる。 ☆就業体験等の職業観の形成や進路の選択決定等に資する体験を行い、希望の進路を決定する。 ☆キャリアプラン・ライフプランを作成し、発表会や相互評価を行う。

実践編

小学校実践例

中学校実践例

高等学校実践例

小学校実践例

小学校 社会 働く人たちの姿や願いを知ることを通して、夢を育む。

単元名 安全なくらしを守る「消ぼうしょの仕事」(第4学年)

ねらい 地域社会における災害及び事故の防止について、見学や聞き取り、資料の活用などによって調べ、人々の安全な暮らしを守るための関係機関の働きと、そこに従事する人々の工夫や努力、願いを知ることを通して、働くことの意義を理解させるとともに将来への夢を育む。

本実践とキャリア教育 (中学年 キャリアプランニング能力)

本単元では、地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について見学したり調べたりして、人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事する人々の工夫や努力などについて学びます。

中でも、消防署を見学することにより、社会科として学ぶべき点だけではなく、キャリア教育の視点も広がってきます。特に今回は、自分たちの安全な暮らしと命を守る仕事をする消防士と実際に出会い、「どんな気持ちで仕事をしているか」「なぜ消防士になったのか」などの質問をすることで、仕事をする人の思いや願い、社会への貢献についても児童に気付かせることができます。

また、生き方のモデルとなるような人々との出会いから、いかに生きていくかを児童に考えさせることができます。

全体構想

主な学習活動	時数
大単元の導入	1
火事や災害を防ぐ	11
・わたしたちの町の火事	1
・火事のもえ広がる速さ	1
・119番のしくみ	1
・消ぼうしょへの見学	2
・消ぼうしの仕事(本時)	1
・学校を火事から守る	1
・地いきの消ぼうせつびと消ぼうだん	1
・大きな災害にそなえる	1
・地いきの一員としてできること	1
・ふりかえり	1
交通事故や事件を防ぐ	9

(体育科) ・けがの防止
(総合的な学習の時間) ・安全で住みよい町づくり
(道徳) 中C (勤労、公共の精神) ・働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
(特別活動) ・学級活動(2)ア ・係活動 ・当番活動 ・避難訓練

《本時のねらい》

- ・ 消防士の仕事は、地域の人々の安全な暮らしや命を守る大切な仕事であることを理解させる。
- ・ 消防士の働く人としての思いや願いを知り、仕事や自分の将来について考えさせる。

《展開》（6 / 11 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 消防署見学から分かったことや感想を発表する。 2 学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 消防士の仕事はどのような仕事か。また、どのような気持ちで仕事をしているのか考えよう。 </div>	◎消防署見学のメモを基に見学を振り返らせる。	見学メモ
展開	3 消防士の仕事について考える。 (1) 消防士とはどのような仕事か。 <発問例> 消防士の仕事はどのような仕事なのか、見学から分かったことを発表しましょう。 (2) どのような気持ちで仕事をしているか。 <発問例> 消防士の人たちは、どのようなことを考えながら、どのような願いをもって仕事をしていますか。 (3) 消防士になった理由は何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている人を助けたい ・ 健康で体力もあるので、消防士に向いている。 ・ 本当に危険な現場で活躍する勇敢な消防士の話をテレビで見た。 	◎仕事をしていて嬉しいことや大変なことは何か想起させる。 ◎命がけで人々の安全な暮らしや命を守る仕事であり、なくてはならない仕事であることに気付くよう助言する。 ◎様々な理由やきっかけで消防士になっていることに気付かせる。(複数の消防士の話から) ☆消防士の考えを通して、消防士の仕事について理解している。	
まとめ	4 消防士の仕事について感じたことをまとめ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 命がけで大変な仕事だ。 ・ 警察などと協力することがとても大切だ。 ・ 毎日訓練して、自分たちの生活を守ってくれている。 ・ 火事は絶対に起こさない。 	☆消防士の仕事について自分なりの考えをもつことができている。	ワークシート

実践のポイント

教員の投げかけ一つでキャリア教育の視点が生まれます。

これまでの学習に「なぜその仕事に就いたのか」という投げかけをプラスすることで、キャリア教育につながります。キャリア教育の視点をもって、既に学校にある教育活動を見直してみましょう。

各教科等との関連を考えて単元を構築しましょう。

総合的な学習の時間における探究的な活動への展開や、各教科、道徳等との関連を図りましょう。このことにより、いろいろな職業や生き方があることを理解することにもつながります。

小学校 体育 めあてに向かって、友達と互いに協力して学習に取り組もうとする態度を育む。

単元名 めざせ！マットの達人 器械運動（マット運動）（第4学年）

- ねらい
- 進んで運動に取り組み、友達のめあてを知り、お互いに見合ったり助け合ったりして運動しようとする意欲と態度を育てる。
 - 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることができるようにする。
 - 基本的な回転技や倒立技ができるようにする。

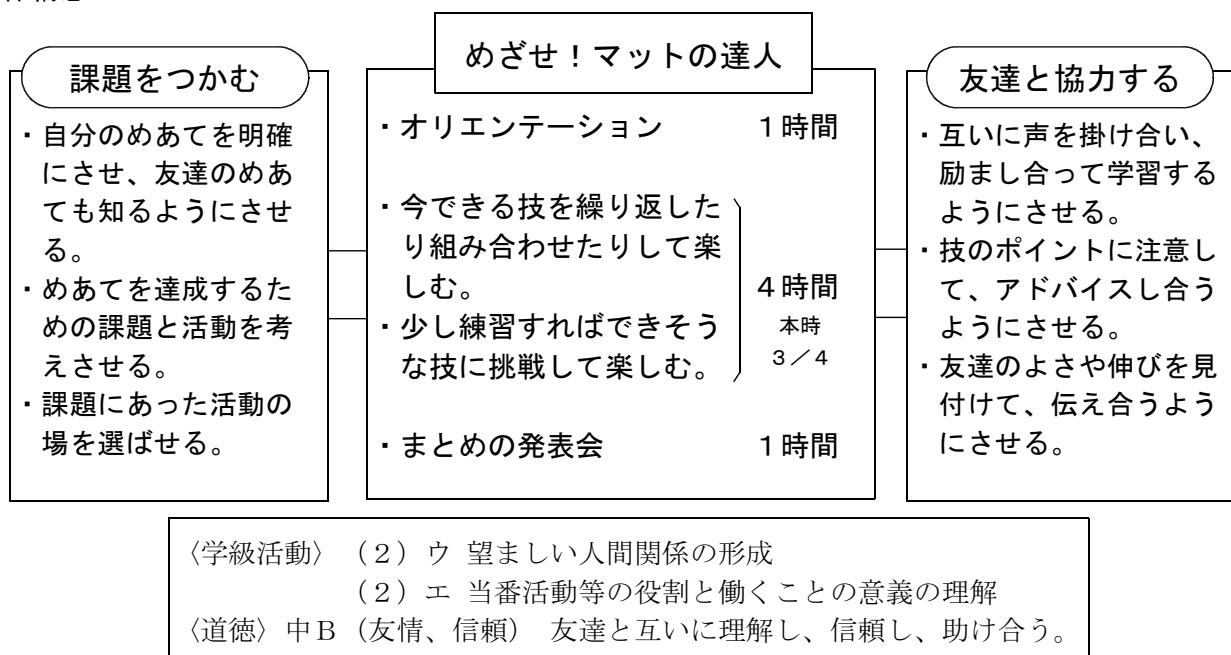
本実践とキャリア教育（中学年 人間関係形成・社会形成能力）

中学年の時期は、友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるようにすることが大切です。低学年段階で個の学校生活への適応を果たした中学年の児童は、集団で物事に取り組もうとする姿が見られます。

本実践では、児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるようにするため、グループで協力して学習する活動を重視しています。グループ内の児童が、お互いのめあてを知った上で、仲間とともに認め合い、協力し合って練習を進めることで、より積極的に友達と関わり合っ取り組もうとする態度が育成されます。このような友達と関わり合う活動を通して、人間関係形成・社会形成能力を育むことができます。この力は、児童が将来、社会との関わりの中で生活し仕事をしていく上で、様々な場面で活用できる基礎的な能力です。

体育科の学習では、児童が、ペアやグループで見合ったり教え合ったりして、関わり合う活動が学習の中心となります。このような体育科の特性を、キャリア教育のねらいと関連付けて指導していきましょう。


全体構想



《本時のねらい》

互いに見合ったり教え合ったりして、協力して練習することができるようにする。

《展開》（4 / 6 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 集合・あいさつ・めあての確認	◎前時の練習を振り返り、本時の学習のめあてをグループで確認するようにさせる。	
	友達と見合ったり教え合ったりして、協力して練習しよう。		
	2 練習の場の準備	○役割を分担して、協力して準備させる。	器具の配置図
展開	3 準備運動	○使う体の部位を十分に動かすようにさせる。	BGM 音楽プレイヤー
	4 主運動につながる運動 ・ゆりかご ・腕支持バランス など	○正確な動きができるよう支援する。 ◎友達同士で揺れるタイミングを合わせたり、腕支持の時間を計ったりするなど協力して活動させる。	
展開	5 主運動 ＜発問例＞ 友達のよいところやがんばっているところ、もっとよくなるアドバイスなどを言葉で伝えよう。 ・今できる技の習熟を図って楽しむ。  ・少し練習すればできそうな技に挑戦して楽しむ。 ・自分の課題にあった場や練習を選ぶ。	◎技のポイントに注意して見合うようにさせ、気付いたことを伝え合うようにさせる。 ◎よい動きや声かけ等を賞賛し、友達のよさや伸びを見付けようとする意識をもたせる。	技の説明図 タブレット端末
	6 整理運動	☆互いに見合ったり助け合ったりして、課題に向かって練習に取り組んでいる。	
まとめ	7 学習のまとめ ・学習カードを利用して、本時の振り返りをする。	◎友達の励ましやアドバイスが自分の課題の解決につながったことや、友達のがんばりなどを記入するように助言する。	学習カード
	8 後片付け	○役割を分担して、協力して片付けさせる。	

実践のポイント

学級経営と体育科の授業づくりを連動させましょう。

器械運動は、「できる」「できない」がはっきりした運動であることから、友達の前でできない自分を見られることに抵抗を感じる児童は少なくありません。日頃の学校生活において、認め合ったり許し合ったりできる児童どうしの人間関係づくりや、一人一人の児童が自分らしさを発揮できる集団づくりなど、学級経営と体育科の授業づくりを連動させることが重要です。

小学校 道徳 自分の夢や目標を実現するために、努力し続けようとする意欲を育てる。

主題名 希望に向かって 高A（希望と勇気、努力と強い意志） （第5学年）

資料名 「パイオニアをめざす ～救急隊員 大伴舞～」（なら教育番組動画「夢を求めて」）
 ※本番組の複製については、県立教育研究所のホームページをご覧ください。

ねらい 24時間勤務の女性消防隊員として働く主人公の生き方について話し合うことを通して、より高い目標を立て、夢や希望をもってくじけず努力していこうとする態度を育む。

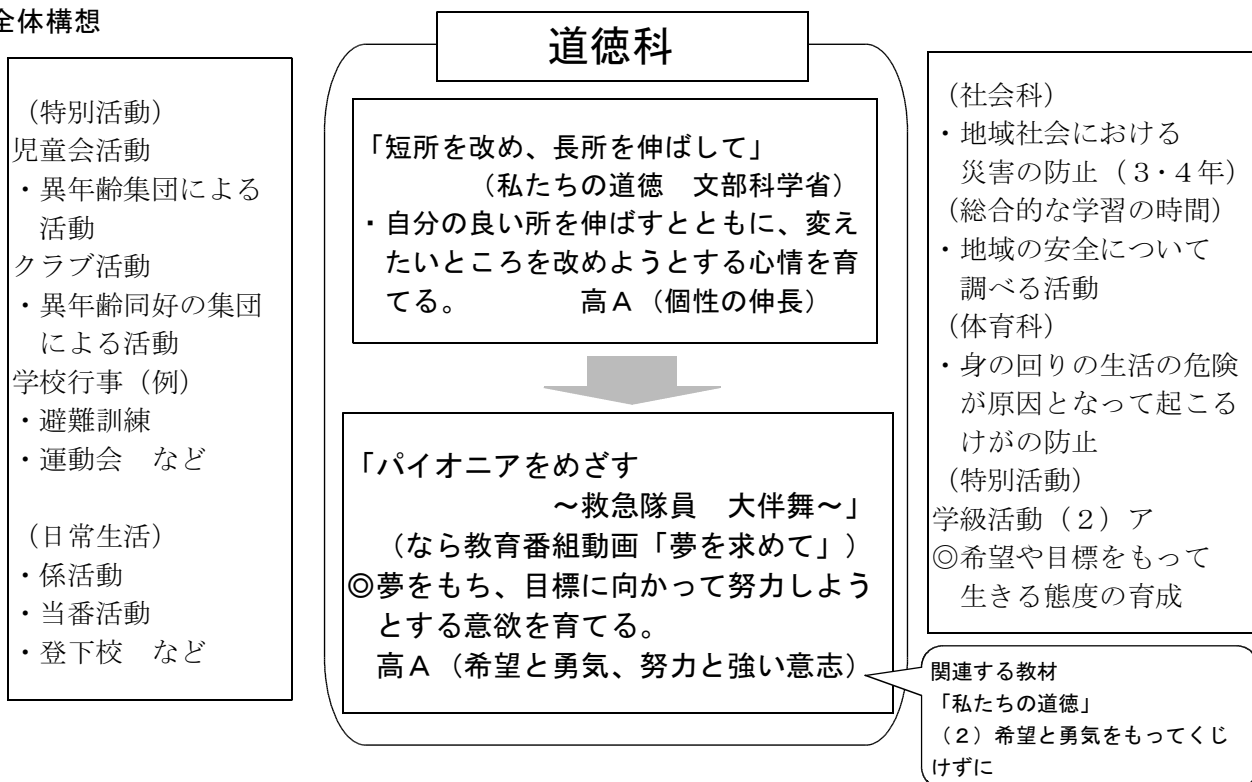
本実践とキャリア教育（高学年 課題対応能力）

高学年の時期は思春期に入り、自分の将来に目を向ける児童が多くなる時期です。ある人物の生き方にあこがれたり、自分の夢や希望がふくらんだりするとともに、自分に自信がもてなかったり、夢と現実との違いを意識したりする時期でもあります。

本実践では、自分の夢の実現に向かって努力し続ける主人公の生き方に触れることにより、希望をもってくじけずに粘り強く努力することの大切さを意識させ、目標に向かって毎日の生活を充実させようとする意欲を育てることをねらいとします。夢や目標に向かってあきらめずに努力することの大切さが分かることで、課題対応能力を育てることにつながります。この力は、児童が自ら行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものです。

本主題は、「様々な人と関わる体験活動」「地域社会における防災活動」「避難訓練など安全に関する活動」など、特別活動や社会科、総合的な学習の時間、体育科などに関連付けた横断的な学習を展開することができます。

全体構想



《本時のねらい》

夢や希望をもつことの大切さに気付き、目標に向かって着実に前進していこうとする心情を育てる。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 自分の夢や目標について振り返る。 ・憧れの人物 ・やりたい仕事 など	◎今まで出会った様々な人との交流や学校内外での体験等と関連付けながら、自分の夢や目標について振り返らせる。	
展開	2 「パイオニアをめざす」を視聴して、主人公の生き方について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">夢の実現に向かって努力し続ける主人公の生き方を考えよう。</div> (1)主人公は、どうして救急隊員をめざそうと思ったのでしょうか。 (2)消防署で働くとき、主人公はどのようなことを心がけていたのでしょうか。 (3)毎日笑顔で厳しい仕事に付く主人公を支えている思いとは、どのようなものなのでしょうか。 (4)主人公は、夢をもつことや働くことについて、どのように考えているのでしょうか。	○救急隊員の仕事の大変さが実感できるように、写真や資料などを効果的に提示する。 ◎自分の長所や興味を生かした仕事をしようと考えていたことに気付かせる。 ◎夢に向かって歩み続けるために必要な心とはどんな心かについて、話し合わせるようにする。 ◎夢や目標に向かって毎日を充実させ、不断の努力を怠らず前向きに働く主人公の生き方に共感させる。	写真 資料 DVD
	3 主人公の生き方から学んだことについて考える。 <発問例> 主人公の生き方から学んだことで、自分の生き方に生かしていきたいと思うことについて考えましょう。	◎学んだことを、夢の実現に向けて自分の生活にどう生かそうとするか考えるよう助言する。 ☆夢をもつことや目標に向かって努力し続けることの大切さに気付いている。	ワークシート
終末	4 指導者の話を聞く		

実践のポイント

高学年として多様な経験を生かして指導の充実を図りましょう。

高学年においては、小学校生活における、集団の一員としての役割と責任などに関する多様な経験を生かして、自らが成長を実感し、これからの課題や目標が見付けられるような指導を工夫することが大切です。そして、各教科等の学習が自らの生き方に深く関わることを実感できるようにするなどの指導を充実させる必要があります。

小学校 特別活動

1年間の成長を確認することを通して自信をもてるようにし、次年度への意欲を高める。

題材名 もうすぐ2年生 学級活動（2）ア（第1学年）

ねらい 1年間を振り返り、自分の成長を確認することを通して自信をもたせるとともに、次年度への目標をもつことを通して次年度の生活への意欲を高めさせる。

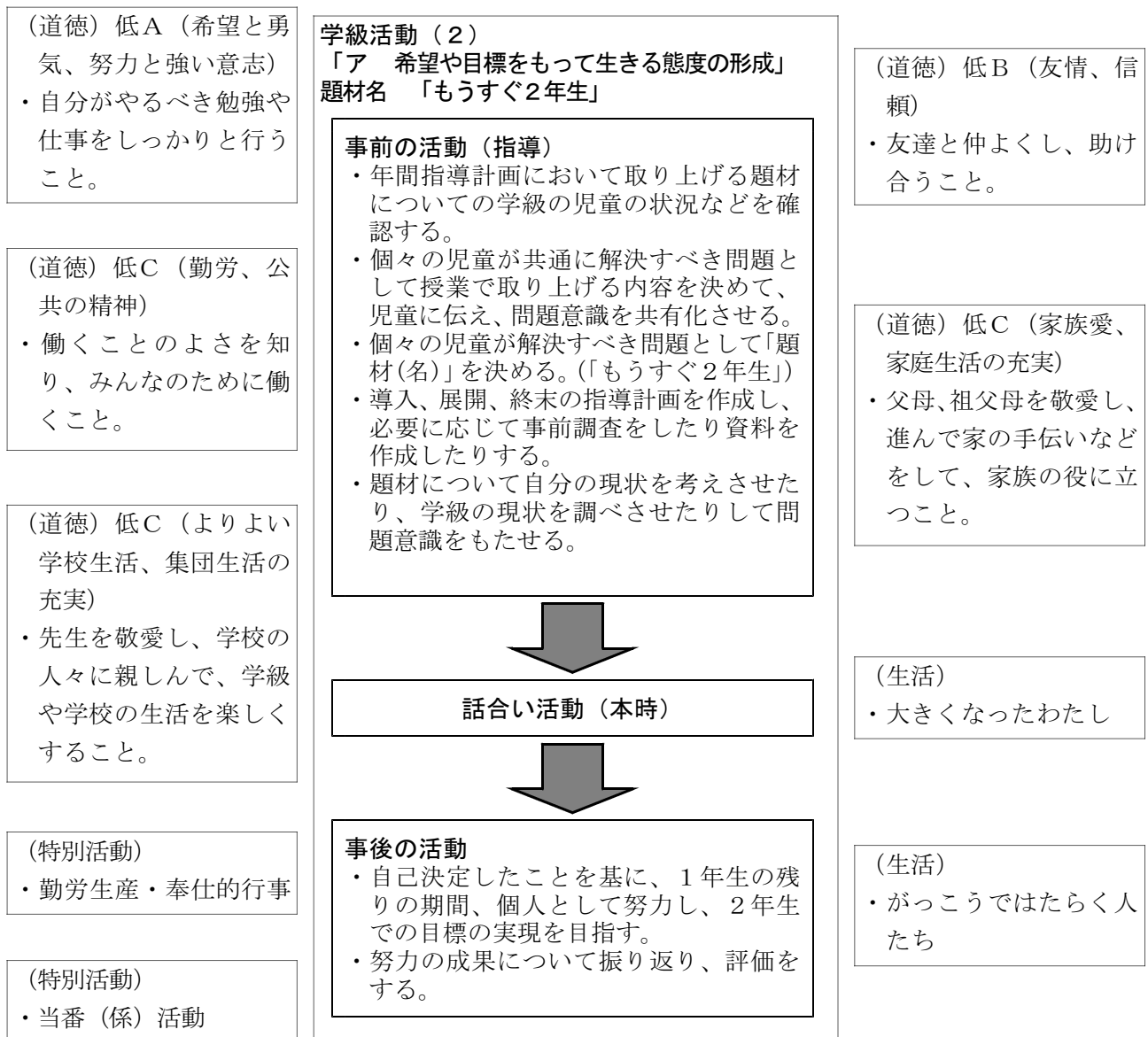
本実践とキャリア教育（低学年 自己理解・自己管理能力）

低学年の時期は、自分が好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにすることが大切です。特に1年生は、就学前から義務教育へと移行し、集団で学習や活動をすることを通して自分のよさや友達によさに気づき、そのことによって自信をもち、できることをさらに増やしていく時期です。

1年間を振り返り、自分や友達の成長や自分が果たした役割に気付くことは、そのまま自己理解、他者理解につながり、自尊感情を育てることやよりよい人間関係を築くことにも大きな影響を与えることが期待されます。

また、成長した自分に気づき、更なる成長を目指して2年生の生活に対する目標をもつことにより、よりよい生活を築くために自分ができることを実践しようとする意欲を高めたいと考えました。

全体構想



《本時のねらい》

1年間を振り返り、自分の成長を確認することを通して自信をもてるようにし、次年度への目標をもつことを通して次年度の生活への意欲を高める。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)	資料等
導入	1 入学式の映像を視聴し、感想を発表し合う。 2 入学当初から3月までの学級全員の身長伸びの合計を知り、身体的な成長に気付く。 3 話し合う事柄を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">1年かんをふりかえり、2年生でがんばりたいことをはなしあおう。</div>	○現在の自分の姿と比較させ、1年間の変容について関心をもたせる。	入学式の映像 紙テープ
展開	4 1年間の歩みを写真で振り返る。 5 自分や友達、学級全体に、できるようになったことや頑張ったことを短冊に書き、発表し合う。 ＜発問例＞ 1年生の1年間で、自分や友達ができるようになったことや頑張っていたことを思い出して、短冊に書きましょう。 6 担任の話から2年生ではどんなことをするのか知り、2年生で頑張りたいことを話し合う。	◎成長したところを見付けるよう、前もって共通理解させる。 ◎短冊に書けずにいる児童には、頑張っていた点を具体的に伝えたり、ヒントとなるような写真を示したりする。 ◎学級内の仕事や役割で、自分ができるようになったことにも着目させる。 ◎具体的な目標になるよう助言する。	写真 短冊 主な行事、学習内容カード
終末	7 話し合ったことを基に、自分が頑張りたいことを学級会ノートに記入する。 ＜発問例＞ 今聞いた友達の意見も手がかりにして、こんな行事で頑張りたい、こんな2年生になりたいと思うことを学級会ノートに書きましょう。 8 頑張りたいことを発表し合う。 9 教員の話聞く。	☆2年生の生活について、具体的な目標を自分なりにもっている。 ◎1年間の成長と、個々の目標のよさを取り上げ、実践への意欲を高める。	学級会ノート

実践のポイント

事前の活動と事後の活動を大切にしましょう。

自己決定した目標に向けて努力する意欲をもたせるには、事前・事後の活動（指導）が大切です。事前の活動では、問題を明確にし、話し合いが活発になるよう問題意識の共有化を図る必要があります。事後の活動では、目標に向けて頑張っていることを、朝や帰りの会などの時間を活用して発表させるなど、児童同士が互いに認め合える機会を設けたり、環境を整えたりしましょう。

集団思考を生かした自己決定を個々の実践につなげましょう。

他者の意見を理解し、自分の意見を述べさせることは、よりよい自己決定のために非常に重要です。自分とは違った考えの友達が、目標を意識して生活する姿を見付けることは、個々の児童が進んで実践しようという意欲を高めます。

中学校実践例

中学校 道徳 自分の役割と責任について考える。

主題名 集団の中での役割と責任 C（よりよい学校生活、集団生活の充実）

資料名 ぼくら、まほろば中バスケット部！（なら教育番組動画「中学生時代」）

※本番組の複製については、県立教育研究所のホームページをご覧ください。

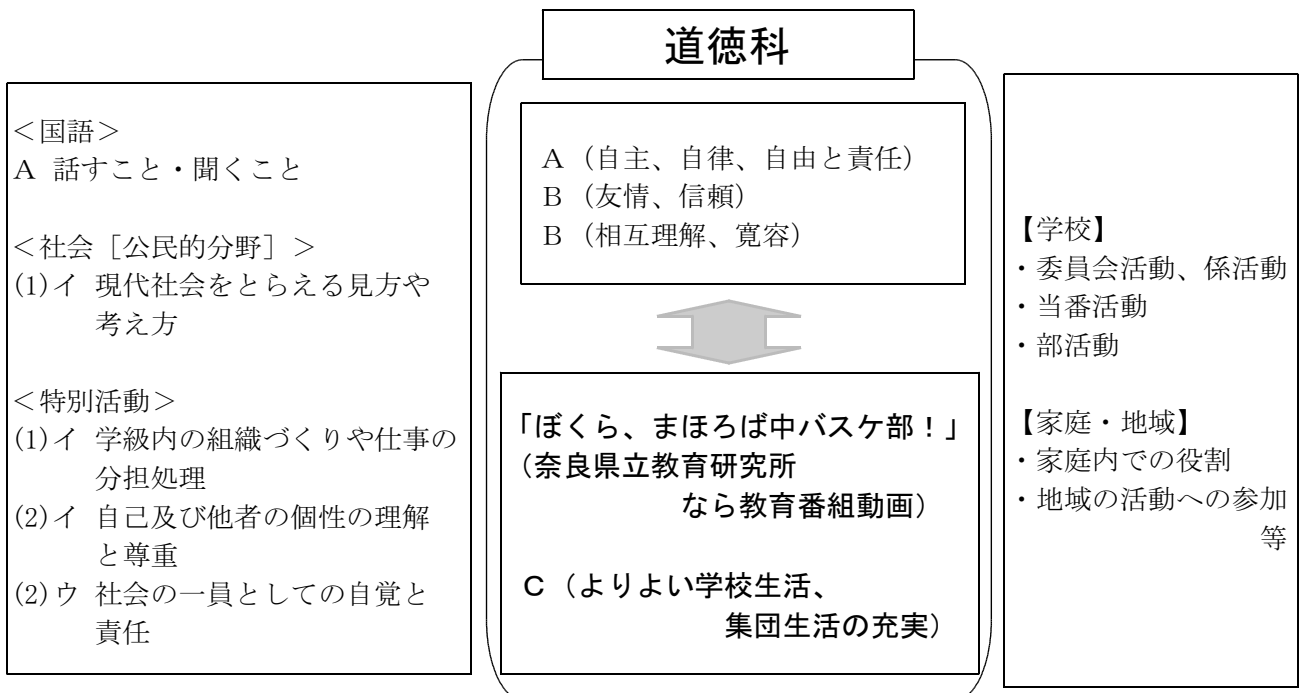
ねらい 自分の属する集団がめざすものを十分に理解し、その中での役割を自覚して主体的に責任を果たそうとする態度を育てる。

本実践とキャリア教育（自己理解・自己管理能力）

本実践で扱う資料は、本来A（自主、自律、自由と責任）〔改正前は、1－（3）〕について考える資料として作成されたものです。しかし、本時では、集団における自己の役割や責任に焦点を当て、資料で描かれているチームをよりよくしていこうとする主人公たちの思いについて話し合う授業展開例を構成しています。

人間は、様々な集団や社会の一員として生活を営んでいます。それぞれ目標や立場を異にする集団に属しながら、共同で日々の生活を営んでいます。人がそれぞれの集団の一員としてよりよく生きていくためには、自分の属する集団の意義や目指す目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めることが大切です。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基礎となるものであり、とりわけ自己管理能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要があります。各人が集団の成員としての役割と責任を自覚して、個々が責任を果たし集団の目標を達成する中で、集団生活の向上や自己実現が図られます。また、集団は成員相互の協力があって維持されるものですから、互いに人間関係を大切にするとともに、励まし合うという協力関係をつくりあげていくことが大切です。

全体構想



《本時のねらい》

集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚し、よりよい集団を築いていこうとする態度を養う。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 自分の役割について、どう思っているか振り返る。(学校・学級・部活動・家庭での役割等)	○自分が所属する集団の中での役割について振り返らせることで本時で話し合うテーマに結びつける。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">よりよい集団にするために必要なことを考えよう。</div> <p>2 「ぼくら、まほろば中バスケット部！」(15分33秒)を視聴して、印象に残ったところを発表する。</p> <p>＜発問例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワタルは教室の窓から外を眺めながら、どんなことを考えたのだろう。 ・ワタルは「チームは確実に変わってきたと思う。」と言っているが、ワタルたちのどのような思いが、チームを変えていったのだろう。 	<p>○用意したワークシートにまとめさせる。</p> <p>◎チームの初勝利へ向けて、それぞれの役割に対して責任を果たそうとする意欲や、チームの課題や目標に対して主体的に関わり、よりよいチームにしていこうとするメンバーたちの思いに気付かせる。</p> <p>◎自分の役割や責任を果たそうとした主人公たちの心情について話し合うことを通して、よりよい集団をつかっていくためには、自分の属する集団の意義や目指す目的を理解することや、互いに励まし協力し合う態度等が必要であることに気付かせる。</p>
	3 「私たちの道徳」p. 166～169を読み、自分自身を振り返る。	<p>○自分が所属している集団の中で、どのような役割や責任を果たしているか振り返ることを通して、自己の役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする態度を養う。</p> <p>☆自分が所属している集団内での役割や責任について考えている。</p>
終末	4 今日の学習を振り返る。	○「私たちの道徳」に感想を書いたり、指導者の話を聞いたりすることを通して、よりよい集団を築いていこうとする思いを温める。

実践のポイント

「○○の一員」であることを自覚させ、果たしている責任について肯定的に認めましょう。

家庭、学校、地域など、それぞれの生徒が所属している様々な集団の中で役割を担い、責任を果たしていることを認め、自己有用感を感じさせることによって自信をもたせることが、キャリア発達につながります。

中学校 総合的な学習の時間

社会人・職業人から生き方を学び、働くことへの関心や意欲を高める。

題材名 働く人々に学ぶ（第1学年）

ねらい 地域(地元)に働く人々の講話を通して、自分の就きたい職業について課題をもち、調べさせる。そして、働く意義や自分の適性について、友達との意見交換を通して自分なりの考えをもち、それらを分かりやすく伝えさせるとともに、その成果を今後の生活に生かそうとさせる。

本実践とキャリア教育（キャリアプランニング能力）

中学生にとって、一般的に「進路決定」というと、卒業期の進路選択として「進路＝進学」ととらえがちです。また、社会においても、勤労や職業に対する理解の不足や安易な考え方など、社会的・職業的自立の未熟さが指摘されているところです。それだけに、この時期に勤労や職業に対する望ましい見方や考え方を育むことは進路指導上も、キャリア教育上も重要なこととなります。

このような課題を踏まえて本実践では、職場体験学習の事前に行う取組として、地域に働く人々の講話を通して、社会的役割や職業及び職業生活について理解させていきます。そして、人は何のために働くのか、なぜ働かなくてはならないのかを考えさせます。さらに、自分の将来や生き方について希望をもって考えさせることができ、生きがいのある人生を築こうとするキャリアプランニング能力の育成につなげる実践です。

全体構想

主な学習活動	時数	他教科との関連
働く人々に学ぶ 地域に働く人々から、どのような理由から今の職業に就いたのか、また、どんなやりがいがあるのかを聞き取る。 ○職業を選択したきっかけ ○自身の中学校時代と職業観 ○働くこととやりがい等 ○質疑応答・お礼のあいさつ	1 (本時)	<国語> 話すこと・聞くこと
就きたい職業について調べる 自分が将来就きたい職業について、どのような条件が必要となってくるかを調べる。 ○就きたい職業や自分の適性についての情報収集、分析、整理	2	<特別活動> (3)ウ社会の一員としての自覚と責任 <技術・家庭> 情報の扱い方
まとめ 整理した内容を分かりやすく他者に伝える方法を考え、まとめる。 ○お礼状の書き方 ○情報交換と感想文の発表	2	<国語> 書くこと <道徳> B(礼儀)

《本時のねらい》

- ・地域で働く人々の話を聞き、職業に対する思いや考えを聞くことを通して、職業の意義を考えさせ、自分の就きたい職業について課題をもたせる。

《展開》（1 / 5時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 本時のねらいを確認し、自分たちで企画した講演会として、マナーを考えた聞き方を意識する。	○司会進行役の発言をよく聞くよう促す。
	ゲストティーチャーの話から、社会人・職業人としての生き方を学ぼう。	
展開	2 ゲストティーチャーの紹介を聞く。	
	3 ゲストティーチャー（異業種3名）によるポスターセッションの形式をとり、1グループ10分程度で話し合う。 ・ゲストティーチャーの話を聞き取る。 ・質問を含め、意見交流をする。 <発問例> ゲストティーチャーの話を基に、自分が就きたい職業について考えよう。	○グループ別にするなど話しやすい環境にする。 ○人は何のために働くのか、その意義や生きがいについて適宜教員が補足を加え、ゲストティーチャーが説明しやすいように配慮する。 ○タイマー等を用いて時間配分に配慮し、生徒のスムーズな移動を促す。
まとめ	4 それぞれのゲストティーチャーと意見交流した内容について、印象に残ったことや疑問に思ったこと等を、ワークシートにまとめ発表する。	◎ゲストティーチャーとのポスターセッションを踏まえ、職業の意義について友達との意見交流を通して、自分の就きたい職業や適性について、考えを深めさせる。 ☆人の話を聞き、ワークシートに自分の意見や考えをまとめ、講話を通して得た勤労観・職業観について意見をもつことができる。
	5 今後の職場体験活動における努力事項をワークシートに記入する。 6 司会進行役からお礼を述べる。 7 教員の話聞く。	○今後の活動に向けた見通しと自覚をもたせる。 ☆ワークシートに振り返ったことを記入し、望ましい勤労観・職業観をもって、自己の能力・適性を生かそうとする態度を身に付けている。

実践のポイント

指導効果を高める工夫をしましょう。

複数のゲストティーチャーに、グループ（少人数）単位で聞き取りをすることで、発言しやすい雰囲気と知りたい情報を得ることができます。ワークシートにまとめたことを基にして発表し合うことで、他者の意見を参考にし、自分の考えを深めることができます。

事後の指導と活動に生かしましょう。

将来の夢の実現に向けて、ワークシートをファイル等にとじて自己評価として有効に活用したり、個別の面談を実施したりしながら指導を展開していきましょう。また、授業の様子や生徒の感想を学級通信等にまとめ、保護者やお世話になったゲストティーチャーへ配布しましょう。本時の学習を通して、今後の職場体験活動でお世話になる職場を意識させるなど、地域社会とのつながりを考えた実践をしていくことが重要です。

中学校 特別活動

自分や友達の長所について考える。

題材名 自分を再発見 学級活動（2）イ 自己及び他者の個性の理解と尊重 （第2学年）

ねらい ○自分を知るための視点や方法を知り、自分を見つめ直す。

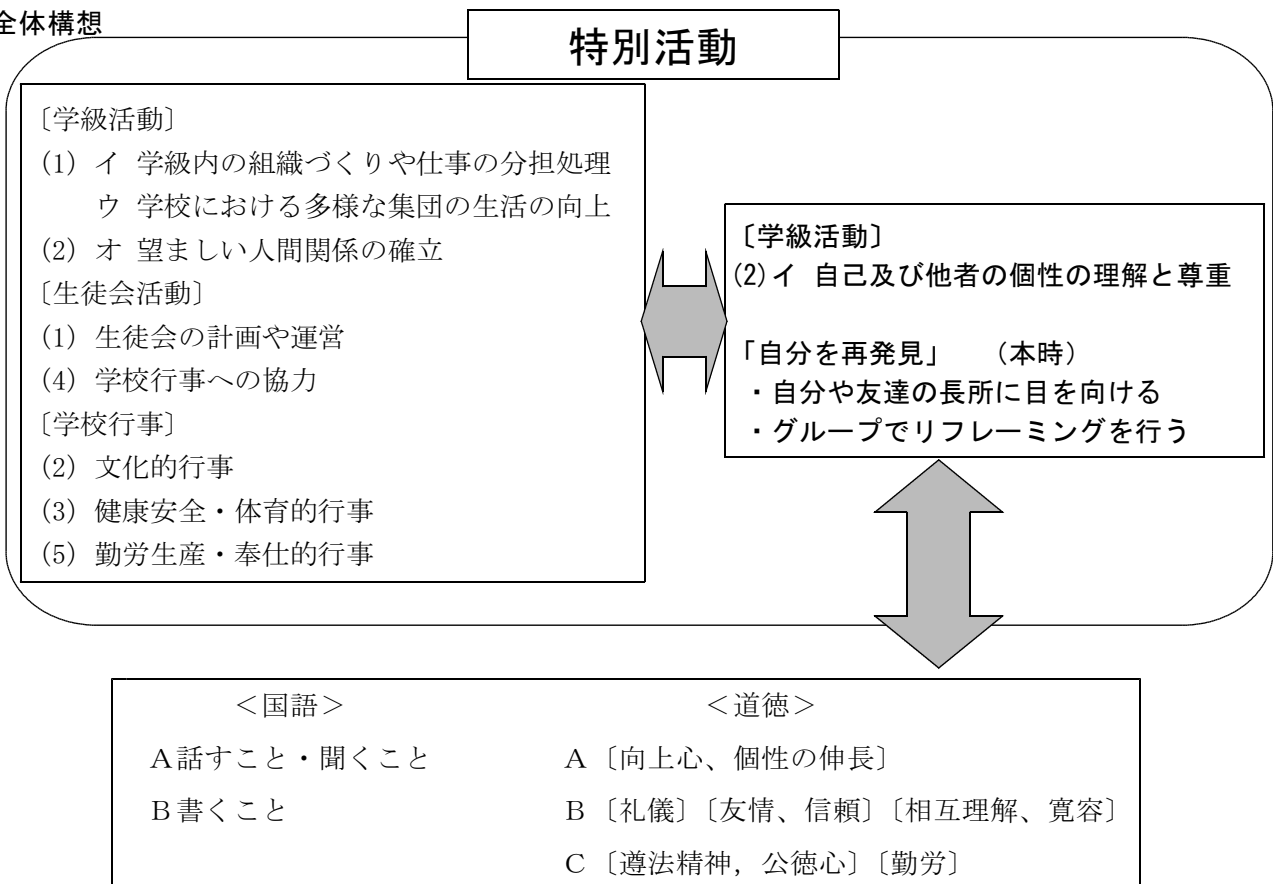
○他者の個性に目を向け、多様な個性や価値観があることを知り、互いを認め合いながら協力していこうとする態度を養う。

本実践とキャリア教育（人間関係形成・社会形成能力）

自己の個性を見つめ、それを大切にしていくことは、自尊感情を高め、自己確立や自己実現を図るための基盤となります。また、他者の個性を理解し互いに尊重し合うことは、自己理解を一層深めるとともに、豊かな人間関係を育てていくことにつながります。人間関係形成・社会形成能力は、社会との関わりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力です。早期離職の理由として仕事に対する適性や人間関係をめぐる課題が挙げられることが多くなっている今日、様々な他者を認めつつ協働していく力を伸ばすことは重要です。

本実践では、特別活動の目標である、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるため、リフレーミングや話し合い活動を通して自分や他者の個性を肯定的に認め合う態度の育成を図ります。

全体構想



《本時のねらい》

リフレーミングという手法を用いて今までと違う視点で自分や友達を見ることによって、自己理解を深めると共に互いを肯定的に認め合おうとする態度を養う。

《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 オリエンテーション ・本時の学習の進め方を確認する。	○自分を振り返り、正直に話せる雰囲気をつくる。 ◎新しい環境（クラス替え時等）での、人間関係に関する不安な状況について想起させる。
	視点を变えて自分を見つめ直そう。	
展開	2 自己分析をする。 ・ワークシートに、自分の長所、短所と考えることを3つずつ記入する。 3 4人程度のグループでリフレーミングを行う。 ・グループ内でワークシート交換し合う。 ・短所として記入されている内容を肯定的な見方に変換して記入する。 ・グループの全員分繰り返す。 4 グループで共有する。 ・ワークシートに記入し合った内容について意見を交換しあう。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> リフレーミングとは、ものの見方や思考の枠組み（フレーム）を変換させる手法のことですが、ここでは肯定的な見方に変換するという意味で使用します。 </div> ○リフレーミングの方法を正しく理解させる。 ◎見方を変えることで、短所と考えているものであっても肯定的な部分が見えてくることに気付かせる。 ☆友達を肯定的に認め合えるような話し合いをしている。
終末	5 今日の学習を振り返る。 ＜発問例＞ 自分について、今日新しく発見したことは何だろう。 ・ワークシートに感想を書いて、考えを深める。	◎自身についての新しい気づきを通して、自己肯定感の向上につなげる。 ☆自己理解を深めている。

実践のポイント

望ましい人間関係の確立を目指しましょう。

リフレーミングの手法を用いて自分や友達を肯定的に見ることを通して、自己を前向きにとらえるとともに他者の個性を尊重しようとする態度を養います。協力・協働して物事に取り組むことのできる望ましい人間関係の確立を目指し、互いを認め合い、高め合えるあたたかい学級集団づくりにつなげましょう。

高等学校実践例

高等学校 総合的な学習の時間

インターンシップを通して職業の価値や勤労の尊さを理解させ、自己の将来について考える。

単元名 将来の進路目標 (第2学年)

- ねらい
- インターンシップ(就業体験活動)を効果的に実施するために、場面に応じた言葉遣いなどの礼儀や、基礎的なコミュニケーションの方法を習得させる。
 - 自己目標を設定してインターンシップに参加し、自らの進路を考える契機とさせる。

本実践とキャリア教育(人間関係形成・社会形成能力)

インターンシップを計画的・体系的なキャリア教育の一環として位置付け、生徒に自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を経験させることで、望ましい勤労観や職業観を醸成し、進路を主体的に選択しようとする態度を養うことができます。進学希望であっても「大学等の向こうにある社会」を生徒に意識させて体験させ、自己の将来について考えさせることが重要です。特定の職業の能力向上を目指すのではなく、将来の進路選択の幅を広げるという観点を大切にしましょう。

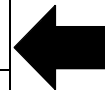
本実践では、インターンシップの事前指導として、インターンシップを円滑に行う上で必要な社会人としてのマナーやコミュニケーションの仕方を中心に指導します。生徒が、職場での年齢差の大きい大人との交流を意識して参加することで、人間関係形成・社会形成能力の育成を図ります。また、事後指導として、それぞれの職場での体験を交流することで、働くことの意義や尊さを理解させ、自らの進路選択について積極的に考えようとする態度を養います。

全体構想

主な学習活動	時数
インターンシップの目的の理解 ・教員からインターンシップの目的・意義についての講話を聞く。	1
社会人マナー講習 ・社会人として必要なマナーやコミュニケーションの仕方について練習する。 ・挨拶、敬語、言葉遣い、電話対応など	2
インターンシップの自己目標の設定 ・自分がインターンシップを通じて何を学ぶか、どんな力を付けたいかなどを考える。	1
インターンシップ体験の振り返り ・体験をまとめ、礼状を作成する。 ・体験発表会を行い、意見を交流する(本時) ・自らの進路選択を考える。	3

<国語総合>
「話すこと・聞くこと」
「書くこと」

<特別活動>
「コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立」
「心身の健康と健全な生活態度や規律のある習慣の確立」



《本時のねらい》

インターンシップの振り返りを通して、職業の価値や勤労の尊さを理解させる。

《展開》（6 / 7 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 本時の課題及び発表の進め方を確認する。 ・自分の発表内容を確認する。 ・発表会を聞く観点を確認する。	◎自己の目標の達成状況と、働くことについて考えたことを発表することを確認させる。
	インターンシップの体験を発表しよう。	
展開	2 4人程度の班ごとに発表会を行う。 ＜発問例＞ インターンシップの体験を発表し、働くことについて意見を交流しよう。 ・従事した業務内容、自己の目標の達成状況等を伝える。 ・大人の働く姿から考えた働くことの意義等について話し合い、班の意見をまとめる。 3 各班の意見を全体に発表する。 ＜発問例＞ 働くことの意義を考えよう。 ・班の考えを書いた紙を用いて簡潔に発表し、意見を交流する。	○多様な意見が出るように、異業種での体験者を混合して班編制を行う。 ◎自己の目標の達成状況とともに、職場の人たちとのコミュニケーションについて成果と課題を振り返らせる。 ○具体的な観点を示して、多くの意見が出るように支援する。
まとめ	4 学習のまとめを行う。 ・発表会を通じて考えたことをワークシートに書く。 ・教員の話聞く。	◎自らの進路選択について考える契機にできることを気付かせる。 ☆職業の価値、勤労の尊さについて考えを深めている。

実践のポイント

インターンシップの体験と自己評価を関連付け、今後の学校生活に結び付けましょう。

インターンシップを一過性のイベントにすることなく、自らの進路選択の契機や在り方生き方の深化につなげることが重要です。生徒一人一人が、インターンシップの体験を基に自己評価をし、職業の価値や勤労の尊さを理解することで、今後の学校生活に明確な目標をもつことができます。

説明し伝え合う活動を生かしましょう。

グループでの発表会や学級での意見交流においては、自他の意見を伝え合うことを通して、他者を理解するとともに、より深く自己を理解することが期待できます。

高等学校 総合的な学習の時間 未来を「想像」して、新しい未来を「創造」する。

単元名 社会と自己の関わり（第2学年）

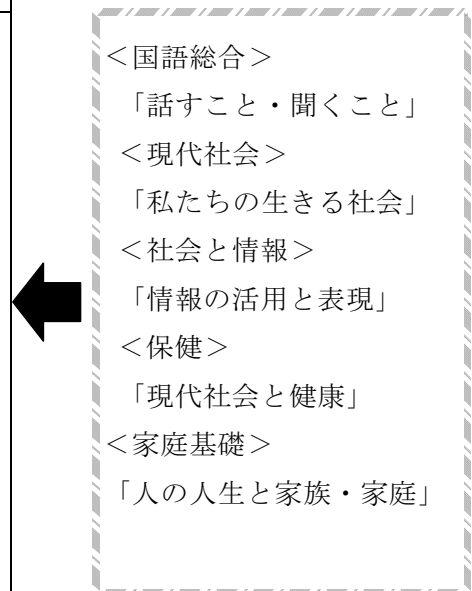
- ねらい
- 現代社会の課題や自分自身の課題を見付け、よりよく問題解決する資質や能力を育成する。
 - 課題解決のため、情報を収集・処理・分析し、論理的に結論を導く力を身に付けさせる。
 - 互いに意見を出し合い、他者の意見を受けながら、協働性を発揮して課題を解決する態度を養う。
 - 課題について探究したことをわかりやすく表現する能力を育てる。

本実践とキャリア教育（キャリアプランニング能力）

本実践では、キャリア発達に必要な「学び方」を習得し、仮説を立て計画を立案するプランニング能力を重視します。基本的にすべての学習活動は、グループ単位で行います。課題は、身近な社会の諸問題や未来社会の創造に関するものを取り扱い、その中で、生徒は自己の生活を見直し、自らの在り方や生き方を考えていきます。本実践は、話し合い等によって、進路適性や望ましい勤労観・職業観等について考察することで、将来の社会的・職業的自立に向けた意欲や態度の育成につなげたキャリアプランニング能力を身に付けることが期待できます。

全体構想

主な学習活動	時数
○身近な社会の諸課題の探究	
・ K J 法的手法を用いてブレインストーミングを行い、主体的・協働的に探求する。	5
・ ディベートの手法を用いて、多面的に探究する。ディベートの準備（テーマ決定・調査）をして、ディベートを行う。	4
・ ブレインストーミングやディベートによる学習を踏まえ「社会と自己の関係」についてのレポートを作成する。（本時4 / 4）	4
・ 発表会を行い、交流する。	1



《本時のねらい》

身近な問題である「よりよく生きるためのワーク・ライフ・バランス」についてのディベートで出された意見を参考にして、社会と自己の関係を認識し、今後の自己の在り方や生き方を考えさせる。

《展開》（13／14時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 以前に行ったディベートの論題について、肯定側、否定側双方の立場の発表について思い出す。	◎本時のテーマが、将来における自己の在り方や生き方と深く関わることを伝える。
	将来における自己の生き方を考えよう。	○本時の活動の流れについて確認する。
展開	2 未来予想図を作成する。 <発問例> 自分の未来を予想して、未来予想図をつくろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や興味・関心を考える。 ・将来やりたい仕事を考える。 ・その仕事に就くために必要なこと(勉強、経験、資格など)を考える。 ・今後やるべきことを考える。 ・高校卒業後の進路を考える。 	○肯定、否定の双方の立場の討論で得られた成果が、今後の生活の充実に結び付くように配慮する。 ○未来を想像して「○年後の自分」のことを書き出すため、勉強、仕事、家族、結婚など将来を考えるヒントを与える。 ◎自己のワーク・ライフ・バランスを考え、将来設計を考えるよう助言する。 ☆自己の能力や適性を生かして、将来の社会的・職業的自立をめざそうとしている。
まとめ	3 次時の発表会に備える。	○発表会で伝える要点を整理するようにさせる。

実践のポイント

課題は、身近な問題に関連付けましょう。

身近な問題に関連した課題を取り扱うことで、生徒は、課題を自分のこととして捉えて自分の生活を見直し、将来のライフサイクルを考えることにつながります。また、単元の最後にグループで意見を出し合い共有させることで、協働的な学びを深めることができます。

高等学校 特別活動 自己の適性と職業を関連付けて考える。

単元名 進路指導 自己理解 ホームルーム活動（3）エ（第1学年）

ねらい ○職業に関する情報を他者と共有することを通して、職業への理解を深めさせる。
○高校卒業後の進路について意識させる。

本実践とキャリア教育（自己理解・自己管理能力）

本実践では、職業についての情報を他者の意見を参考にして収集し、自分の今までの経験も踏まえて、自分の適性と職業とを関連付けて考えさせます。これにより、自己理解・自己管理能力を育成することを重視します。また、他者とのコミュニケーションにより互いの考えを理解し合うことは人間関係形成・社会形成能力を育成することにもつながります。本実践は、自分の将来のために、今の学校生活を充実させることが大切であることを認識させ、主体的な進路の選択決定と将来設計につなげる実践です。

全体構想

主な学習活動		時数
1年 自己理解	進路学習を通して、自分自身の性格や特徴、適性などを考える機会をもつ。自己理解の方法について学ぶ。	6
(例) 自己理解		(1)
	関心のある職業・就きたい職業について（本時）	(1)
	職業の3要素について	(1)
	仕事と生き方	(1)
	職業について	(1)
	1年間の進路学習を振り返って	(1)
2年 適性と進路	職業についての知識を深めるとともに、自分の性格や特徴、適性と進路適性とを関連付けながら、適性と進路について考える。	6
3年 進路設計	自分の適性と進路適性の理解とを考え合わせて、進路を選択し、今後の進路計画を設計する。	6

〈国語総合〉

「話すこと・聞くこと」

〈情報〉

「プレゼンテーションの技法」

〈現代社会〉

「私たちの生きる社会」

《本時のねらい》

職業に関する情報を他者の意見を参考にして収集し、自分の適性と職業とを関連付けて考えさせる。また、話し合い活動を通して、職業に対する理解を深めさせ、今後の学校生活の充実と、社会的・職業的自立に向けた主体的な態度を育成する。

《展開》（2 / 6 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 自分が興味や関心をもっている職業と、それを選んだ理由を書く。 2 その職業に向いているのはどのような人なのかを書き出す。	○生徒が考える職業適性が、その職業の現状に即しているとは限らないが、生徒の考えを尊重する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 職業への理解を深め、自分の将来について考えよう。 </div>	
展開	3 グループで話し合う。 ・4～5人のグループで、自分が興味や関心をもっている職業とそれに向いていると考える人を発表し合い、意見交換をする。	○グループの話し合いの中で、職業に対する他者の考えを積極的に聞き取り、情報を整理して、自らの考えを深めることができるよう支援する。 ◎コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を育むため、積極的な発言や他者の意見への傾聴を促す。 ☆自分の適性と職業とを関連付けて意見を述べ、話し合いがなされている。
まとめ	4 話し合い活動を通して考えたことをまとめる。 <発問例> ・自分はどうのような職業に就きたいと思いませんか。 ・自分が選んだ職業に就くためには、どのようなことが必要になるのでしょうか。 ・資格取得や進学などの予想を書く。	○自分の希望を大切にしながら、自己の適性と職業との関連を考えながら記入するように支援する。 ○夢や希望の実現のための強い意志や努力が、最も大切であることを理解させるようにする。 ☆自分の将来について、積極的に考えようとしている。 ○生徒が、自分が選んだ職業に必要な事項の記入をする際に、今後どのようなことを調べなければならぬかを考えさせる。

実践のポイント

話し合いにより他者理解を図ることで、ホームルームの雰囲気づくりをしましょう。

他者を理解することで、互いを尊重し合うホームルームとなり、活発に意見が出てきます。さらに、互いの理解が深まり、互いを高め合うことができます。

話し合いにより今後の在り方や生き方への考察を深めることで、学習意欲の向上を図りましょう。

今の自分自身と向き合わせることで、今後身に付けるべきことを理解し、自ら実践していけるよう導くことが大切です。

高等学校 特別活動 自己の能力や適性を生かし、具体的な進路を考える。

単元名 進路指導 適性と進路 ホームルーム活動（3）ウ（第2学年）

ねらい ○自己の進路を実現するために、自己の将来の生き方や進路について理解を深めさせる。
○高校卒業後の進路について意識させ、自分の将来の進路に合った適切な教科・科目選択を考えさせる。

本実践とキャリア教育（課題対応能力）

本実践では、将来、生徒が就きたい職業についての情報をグループで共有し、自分の将来の進路の実現のための適切な教科・科目選択ができるよう、進路と科目とを関連付けて考えさせます。これにより、自己の適性の理解や進路情報を基に、将来の進路実現に向けての課題を発見し、より幅の広い方策を検討することができる課題対応能力を育成します。本時は、自己の進路実現ために収集した情報を互いに交流して、進路選択の幅を広げる実践です。

全体構想

主な学習活動		時数
1年 自己理解	進路学習を通して、自分自身の性格や特徴、適性などを考える機会をもつ。自己理解の方法について学ぶ。	6
2年 適性と進路	職業についての知識を深めるとともに、自分の性格や特徴、適性と進路適性とを関連付けながら考え、適性と進路について考える。 (例) 自己の進路を考える（進路選択の早期具体化）	6
	勤労観・職業観の育成	(1)
	進路志望の内容を深め、自己の能力や職業についての理解（本時2/2）	(2)
	教科・科目選択について	(1)
	1年間の進路学習を振り返って	(1)
3年 進路設計	自分の適性と進路適性の理解とを考え合わせて、進路を選択し、今後の進路計画を設計する。	6

〈国語総合〉

「話すこと・聞くこと」

「書くこと」

〈情報〉

「プレゼンテーションの技法」

〈現代社会〉

「私たちの生きる社会」

〈総合的な学習の時間〉

・自己の在り方生き方や進路についての学習

《本時のねらい》

職業についての情報や意見をグループで交流し、それらを参考にして自分の適性と職業とを関連付けて考えさせる。また、グループ内での意見交換を通して、自分の進路実現には様々な方法があることに気付かせる。

《展開》（4 / 6 時間）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 本時の学習課題を確認する。 ・各自が収集した進路についての情報を交流することを確認する。	○各自が事前に準備している資料の内容について交流し、自分の進路について深く考えることを知らせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分が希望する職業に就くには、どのような方法があるのか考えよう。 </div>	
展開	2 職種別にグループになり、資料をもとに話し合う。 <発問例> グループ内資料を交換しながら、進路について情報や意見を交流しよう。 ・自分以外の資料に、自分が集めた情報や意見等を付箋に記入して貼る。	○進路を実現するために各自が収集した情報を交流させる。 ○すべての生徒が自発的に意見交換ができるように、あらかじめ付箋の色を決めておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> 青→情報、赤→意見・感想、黄→質問 </div> ○一枚の付箋には、一つの事柄を書かせる。
	3 グループ内で情報を共有し、進路について話し合う。	◎進む道は、一つではないことに気付かせる。 ☆他者の意見を尊重しながら、自らの進むべき進路について主体的に考えている。
まとめ	4 これからの課題を資料に記入する。 ・付箋に書かれた内容をよく読み、自分の進路の実現について考える。 5 教員の話聞く。	◎他者と意見交換を行うことで、進路の実現には様々な方法があることに気付かせ、今後のキャリアカウンセリングに結び付けられるようにする。

実践のポイント

自らのキャリアに関わることとして学べる工夫をしましょう。

インターネットや進路雑誌等を活用して収集した職業についての情報を交流します。付箋を使うと意見が出やすく、活発な交流が期待でき、自らのキャリアを考えることができます。

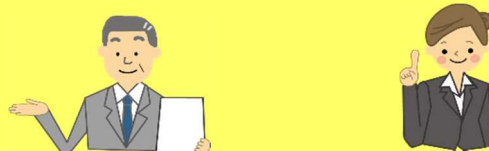
9 参考・引用文献

- 「小学校キャリア教育の手引き〈改訂版〉」 文部科学省 平成 23 年 5 月
「中学校キャリア教育の手引き」 文部科学省 平成 23 年 3 月
「高等学校キャリア教育の手引き」 文部科学省 平成 23 年 11 月
「キャリア教育をデザインするー今ある教育活動を生かしたキャリア教育ー」
国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 平成 24 年 8 月

キャリアサポートセンターの御案内

奈良県内の公立学校におけるキャリア教育の充実を図るため、学校を支援することを目的として、奈良県立教育研究所内に設置されました。

キャリア教育支援員とキャリアプランナーによる支援



【具体的な取組】

- 各校種におけるキャリア教育の推進
 - ・高校生のキャリアプランニング支援、面接指導、ガイダンス・セミナーの実施
 - ・就学前から高等学校卒業までを見通した体系的なキャリア教育の支援
- インターンシップ、ジョブシャドウの強化
 - ・インターンシップ、ジョブシャドウの受入先の開拓
 - ・高等学校への募集案内と実施に向けた調整
- 求人開拓とマッチングの強化
 - ・企業訪問による求人開拓
 - ・企業情報の収集と高等学校への情報提供
- 中途退学者への就職支援
 - ・相談活動や情報提供



支援の依頼・お問い合わせ先

奈良県立教育研究所 キャリアサポートセンター 0744-33-8901